P-30-1

〝心臓から出る血〟を聴衆に

ルービンシュタインが記者会見

〝ピアノの帝王〟アルトゥール・ルービンシュタインが来日した。昭和十年いらい三十一年ぶりの再訪。ルービンシュタインは一八八九年ポーランドの口ッツの生まれ。名教師パルトに師事して十一歳のときベルリンでデビューしていらい、すでに六十五年間もエネルギッシュな演奏活動を続けている。現代のリスト〝を思わせるスケールの大きさとけんらん豪華さが見に、アニエラ夫人、アリー一緒

上きげんで聞るルービンシュタイン

を伴って現われたルービンシュタインは、黒っぽいスーツにブルーのシャツとそんじのタイ、胸のポケットにタイと同色のハンカチをのぞかせたなかなかのおしゃれぶり。「そう緊張みたいにカメラを向けられては、やせてしまうよ」とカメラマンたちをかわしたのち、しばらくきげんでリーコンたっぷりに応答した。

「三十一年ぶりの日本は？」

「美しい小さな国だと思っていたらこの通、長ぶりはどうふうろ。やはりたいへんやすし、高りりあいに、親切に思い、既にいろいろ（？）より「すれ」

「私とピアノとは一体。ピアノそのものに生まれてきたようなものです。演奏活動をたったとが苦手で、演奏もこの通り元気。公衆に応じてください。演奏会のために、準備します。ようなことは使ってもらいにしています。演奏会は、心臓から出るこのひとしずくを聴衆にいえるような内的な音楽がなくてはなりません」

「ピアニストは？」

「ああ、難しいですか。そばかす。リー！ 彼は好きです」と助かりし、ルービンシュタインは、ああ、彼がわかの名曲を教ってくれました（ピアノ曲を弾いてくれ）

（ピアノ）

（ピアノ）

（ピアノ）

41. 6. 14　神戸新聞　夕刊